

九州の水環境を知ろう ～佐賀の水環境（2）～開催報告

九州沖縄支部支部長・山西博幸（佐賀大学・教授）

九州沖縄支部では、環境問題への知識向上と健全な水環境の保全のための知識向上を図るための講演会や現地見学会を実施しております。昨年に引き続き、本年も佐賀の水環境についての現地見学会を企画開催いたしました。主催は日本水環境学会九州沖縄支部ですが、佐賀での開催ということもあり、共催に地元の産官学で組織された低平地研究会・基盤整備専門部会と環境専門部会、後援として佐賀大学低平地沿岸海域研究センターにお願いしました。

実施日は平成 27 年 11 月 19 日（木）で、8：50 までに佐賀バスセンター8 番乗り場に集合してもらいました。前日までの雨模様がうそのように当日は朝から天気も良く、見学会日和となりました。参加者は 13 名で、85 歳の方から佐賀大学の学生さんまで幅広い年代層でかつ女性も 3 名参加していただきました。

まず、最初に訪れた先は、嘉瀬川中流域にある「さが水ものがたり館」。ここでは、まず佐賀平野の大きなパノラママップがあり、当日の見学地の流れを説明し、その後、成富兵庫茂安公の治水に関わる業績で佐賀城下へ水を引き込むための施設として有名な石井樋とその関連施設（「象の鼻」や「天狗の鼻」といった流れを緩和させ、土砂の流れ込みを制御する仕掛けなど）を直に見て回りました。

次に訪れたのが佐賀市下水浄化センターで、ここでは佐賀市街地を含む 18 万人を対象とした公共下水道計画に基づき 1 日 5 万トンの下水を受け入れ、処理しているとのこと。本処理場では循環型社会の構築に対する取り組みに力を入れており、例えば、メタンガスの有効利用による発電事業、下水道汚泥を用いた堆肥化事業、などの説明を受けました。また、下流域に日本有数のノリ漁場を有する佐賀ならではの弾力的な運用として、冬の栄養塩が不足する時期に下水処理場から栄養塩を供給するといった試みがなされていました。

干潟よか公園は佐賀市東与賀町の有明海に面した場所にあり、10～11 月には干潟域に紅葉するシメソウが有名です。当日は紅葉の最盛期を過ぎていたものの、その繁茂した様子を散策しました。

ノリ漁場の見学は今回の見学会のメインともいえる 1 時間ほどのクルージングです。本庄江川河口にある佐嘉漁港から事前にチャーターした漁船に乗り込みました。15 分ほどでノリ漁場に到着。通常は早朝に作業をするためか、一部の漁業者のみでしたが、ノリ網についたノリ葉状体を箱舟の中に取り込んでおり、参加者皆一斉に写真を撮っていました。その後、陸上に移動し、ノリ製造所を見学し、ノリが食卓に届くまでの一連の流れを知ることができました。ノリ品質検査機械や人による選別など、ノリ製造にこだわる様子がよくわかりました。今年は水温がやや高めで雨も多く、やや品質の面で不安があるとのこと、漁業者の努力に期待したいとのことでした。

最後の訪問地は、早津江川下流の右岸にある世界遺産にも認定された三重津海軍所跡地の見学を行いました。事前に予約しておいたヘッドホン付のスクリーンを各自身に着け、所定の場所でのイメージ画像を覗きつつ、かつて佐賀藩によるドライドックと蒸気船に思いをはせました。館内では 3D の映像による紹介など、興味あるブースを皆で見て回りました。その後、ほぼ予定通り午後 5 時前に佐賀バスセンターに到着し、参加者皆問題もなく無事に解散することができました。

参加者からは、有意義な見学会であったとのことご意見をいただき、主催者としても大変満足いく企画となりました。最後になりましたが、見学先での説明等にご協力いただきました関係者（さが水もの

がたり館，佐賀市下水浄化センター，佐賀市漁協)にお礼申し上げます。



さが水ものがたり館にて



佐賀市下水浄化センターにて



干潟よか公園(シチメンソウ)にて



ノリ漁場にて



ノリ製造・検査所にて



三重津海軍所跡地にて